

人生への終わりのない振付を祝って

時を超え、歳を超え、困難を超えて受け継がれ、続いてゆくもの、それが芸術です。芸術は人類がその子孫たちに遺すあらゆるもの - 建築、書物、絵画、音楽、あるいは動きや踊りなど、様々なものを通り抜けて遺り伝わってゆきます。その意味で、私はダンスを現在という最新の歴史のレッスンであると考えます。現在にしか起こり得ない最新の過去と絶え間なく関わるレッスンです。ダンスはまた、他の多くの芸術分野と同様に、国境を持ちません。スタイルに制限があったり決まりの中でしか踊れないというような時でさえ、私たちのムーヴメントや振付や流動への希求は、いち早くそのスタイルと混ざり合って取って代わり表現してしまいます。それがダンスです。

世のあらゆるものは当然全てに関わっている。ダンスも常に変化する現在という空間との関わりでのみ存在します。ダンスは私たちにとって愛情を注ぐことの出来る最も誠実な表現形態でしょう。人びとが自分を解放して踊る時（それがバレエ、ヒップホップ、超前衛的現代パフォーマンス、あるいは単にディスコでの気儘な動き等に拘わらず）、時にはマスクを被って嘘もつき、常に互いに互いを映しあう。その映し合いの頂点は、踊っている誠実な瞬間そのものなのです。

周りの人びとと一緒に、同じように動き、また、その動きを見ることにより、私たちはその人たちの感動を直接感じとり、考えを理解し、そのエネルギーと繋がる事が出来ます。はっきりと私たちが互いを知り、理解することが出来るのは、多分、そのような「時」なのでしょう。私は、ダンスが他の人のために空間と時間を与え、創り出し、共存を賛美するものである、と想像することが好きです。パフォーマンスが内に秘める暗黙の「美」は忘れられがちですが、隣合って座る多くの人びとが息を詰めて同時に分かち合う時空間の美は確かに存在します。それは私的な空間ではなく、従ってパフォーマンスに立ち会って観るということ自体は極めて社会的な経験なのです。パフォーマンスで繋ぐこの儀式に集う私たちは皆、同次元の現在を共にしているといえましょう。

2012年、私は皆さんに出来る限り多くのダンスを望みたい。2011年の様々なあらゆる困難を忘れることなく、逆にそれらの困難と取り組んで創造し、困難に向かって踊り、お互いと世界とを結ぶ道を見出し、終わる事のない生涯のコレオグラフィーの一端を担う、そんな1年となりますように。「誠実さ」を見付け、それを伝え、反映して祝い合う、そんなダンスを世界中の皆さんに望みます。 (translation / Yoko ODAGIRI)